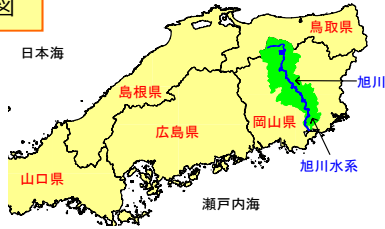


気候変動を踏まえた「旭川水系河川整備基本方針」変更の概要

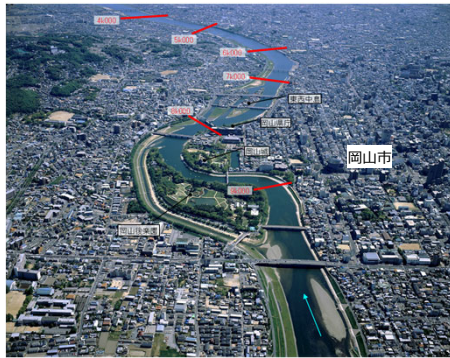
- 長期的な河川整備の目標となる洪水の規模（基本高水）を基準地点下牧において、 $8,000\text{m}^3/\text{s}$ から $9,400\text{m}^3/\text{s}$ に変更し、基本高水の流量を河道と洪水調節施設等に配分。
- 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、流域治水の視点も踏まえ、流域全体を俯瞰した上で中・上流部や支川での貯留・遊水機能の確保等幅広く検討を実施するとともに、河道配分流量の増大の可能性について、河川環境・河川利用や地域社会への影響等を総合的に勘案して検討した結果、洪水調節流量を $2,800\text{m}^3/\text{s}$ 、河道配分流量を $6,600\text{m}^3/\text{s}$ とし、百間川に $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を分流する
- 農業用水路を活用した事前水位調整や農業用ため池の低水管理及び事前放流、民間等の流出抑制対策、砂防、治山対策など、流域治水の取組の更なる推進を図る。

位置図

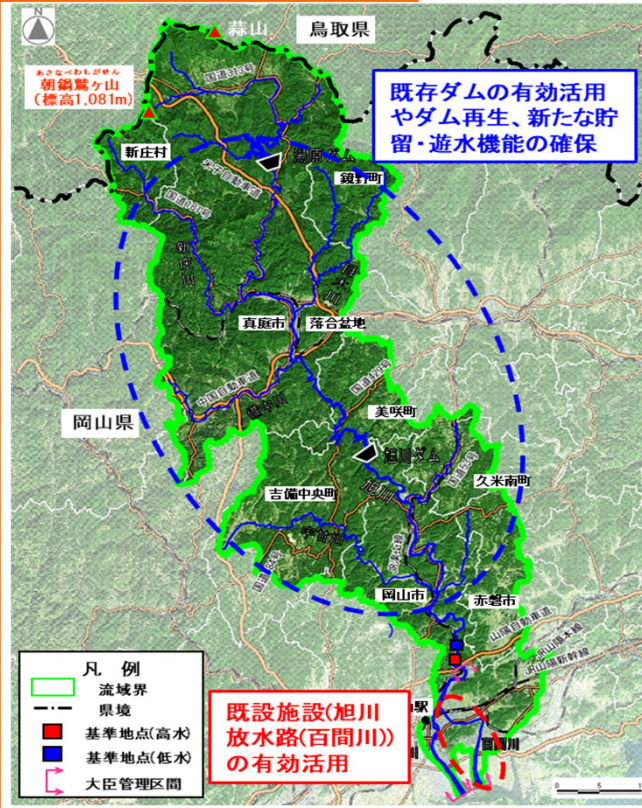


流域の概要

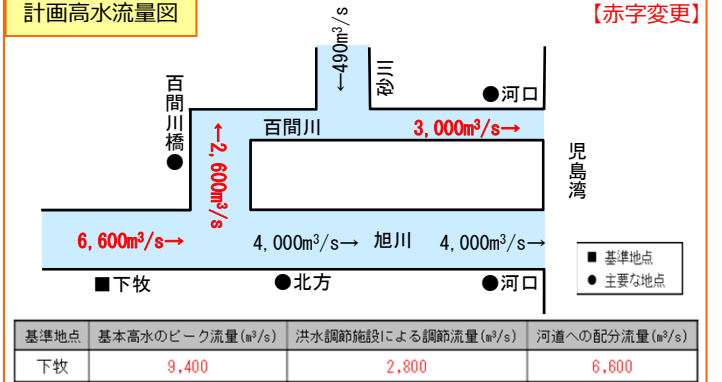
- 旭川下流は人口・資産が集積しており、岡山県の県庁所在地である政令指定都市岡山市の中心部を貫流する。



河道と洪水調節施設等の設定の考え方



計画高水流量図



既存施設の有効活用

- 百間川分流部は全国でも稀な固定堰方式による大規模な治水分流施設であり、昭和45年4月の大規模事業採択以後、約50年の年月をかけた放水路事業が令和元年6月に完成。
- 平成30年7月豪雨では、百間川の河口水門の増築及び堤防整備・掘削、分流部改築の概成により、旭川下流部では洪水を安全に流下させ、岡山市街地の浸水を防いだ。
- 気候変動により増大する流量は、既存施設の有効活用等により対応する。



- 旭川中上流ダム再生事業により、旭川ダムの洪水調節機能の向上を図る。

河道と洪水調節施設等の配分流量

